

口頭発表プログラム

■第1日目

4月18日(日)	第1会場	第2会場
14:00	101 座長 門田育生 日本新産 <i>Pythium nunn</i> の <i>P. ultimum</i> var. <i>ultimum</i> に対する拮抗性 小林咲龍 ¹ ・埋橋志穂美 ² ・東條元昭 ¹ ・柿嵩眞 ² (大阪府大院生環・筑波大院生環)	201 座長 山岡直人 イネ稲こうじ病の品種抵抗性評価法の検討と小穂への感染過程の観察 ○芦澤武人 ¹ ・高橋真実 ¹ ・荒井治喜 ¹ ・有江力 ² ・森脇丈治 ³ ・平八重一 ⁴ (中央農研・東京農工大農・富山産技セ・九沖農研)
14:12	102 転炉スラグ資材施用によるキュウリホモブシス根腐病の発病抑制効果 ○岩館康哉・猫塚修一 (岩手農研セ)	202 紫紋羽病菌が生産する二次代謝産物が菌食性トビムシに及ぼす影響 ○澤島拓夫・中村 仁・佐々木厚子・兼松聡子 (果樹研)
14:24	103 アスパラガス茎枯病に対する各種マルチ処理の発病抑制効果 ○生咲 巖 (香川農試)	203 トマトうどんこ病菌の分生子柄に形成された偽鎖生分生子は高い発芽力を有し同調的に分化する ○野々村照雄 ¹ ・松田克礼 ¹ ・角谷晃司 ² ・瀧川義浩 ³ ・豊田秀吉 ¹ (近畿大農・近畿大業総研・近畿大先端技セ)
14:36	104 ナス黒点根腐病に対する土壌灌注剤の効果について ○矢野和孝・森田泰彰 (高知農技セ)	204 日本産ダイズ茎疫病菌の病原性と国内ダイズ品種に対する反応 ○荒井治喜 ¹ ・森脇丈治 ² ・芦澤武人 ¹ ・高橋真実 ¹ (中央農研・富山農総技セ)
14:48	105 水稲種子に対する乾熱空気処理がいもち病菌および発芽に与える影響 ○越智昭彦 ¹ ・小林 研 ² ・中山夏希 ² ・山下貴史 ² (山形農総研セ・生研センター)	205 座長 田中千尋 ラオスにおけるイネいもち病菌レースの分布 Xangxayasane, P. ¹ ・Inthapanya, P. ¹ ・Thiravong, K. ¹ ・川崎顕子 ² ・福田普通 ² ・林 長生 ³ (ラオス稲及び換金作物研・JIRCAS・生物研)
15:00	106 座長 田代暢哉 リンゴ紫紋羽病に対する液状複合肥料地表面灌注処理の発病抑制要因 ○浅利正義 (秋田農技セ果試)	206 転換畑におけるイネ紋枯病菌の病原性および菌群性状解析 ○松元 賢 ¹ ・Ha Viet, C. ² ・Seint San, A. ³ (九大熱研セ・ハノイ農業大学・イエジン農業大学)
15:12	107 静岡県におけるストロビルリン系剤耐性チャ輪斑病菌の発生 ○外側正之 ¹ ・西島卓也 ² ・片山晴喜 ² (静岡茶研セ・静岡防除所)	207 Ethylene-Regulated Growth and Pathogenicity of <i>Botrytis cinerea</i> ○Zhu, P.-K. ¹ ・Zhang, Z.-B. ¹ ・Zhang, C.-H. ¹ ・Liu, Y. ¹ ・Matsuda, Y. ² ・Toyoda, H. ² ・and Xu, L. ¹ (Sch. Life Sci., East China Normal Univ., ² Fac. Agric., Kinki Univ.)

第3会場	第4会場
301 座長 瀧川雄一 <i>Xanthomonas arboricola</i> によるブドウ斑点細菌病(新称) ○澤田宏之 ¹ ・佐藤豊三 ¹ ・功刀幸博 ² ・綿打享子 ² ・永井利郎 ¹ ・富岡啓介 ¹ ・青木孝之 ¹ ・工藤 晟 ³ (生物研・山梨果試・元：山梨果試)	401 座長 鈴木 匡 ランエス斑紋ウイルス (OFV) の核内 viroplasm 形成には N および P 蛋白質が必要である ○近藤秀樹・野田瑞紀・廣門知紗・鈴木信弘 (岡山大資生研)
302 <i>Pseudomonas</i> 属細菌によるセイヨウナシ黒斑細菌病(新称)の発生 ○阿部篤智 ¹ ・本田浩央 ² ・佐藤健治 ³ ・竹田富一 ⁴ ・畔上耕児 ⁵ (山形防除所・山形園試・山形県庁・置賜総支・中央農研)	402 クローバ葉脈黄化ウイルス 90-1Br2 株がエンドウに誘導する致死性の全身細胞死には複数のウイルス因子が関与する ○厚見 剛・上田一郎 (北大院農)
303 セイヨウナシ黒斑細菌病(新称)の病原細菌の同定 ○田平 剛 ¹ ・本田浩央 ² ・阿部篤智 ³ ・井上康宏 ¹ ・畔上耕児 ¹ (中央農研・山形園試・山形防除所)	403 ウイルス誘導性の植物体全身壊死はウイルスの蓄積量抑制を伴う ○小松 健・岡野夕香里・白石拓也・橋本将典・尾関文二・千枝博子・山次康幸・難波成任 (東大院農)
304 <i>Pantoea ananatis</i> によるタマネギ鱗茎腐敗症の発生 ○白川 隆 ¹ ・西口真嗣 ² ・山内のりひと ¹ (野菜茶研・兵庫農総セ淡路)	404 キュウリモザイクウイルス抵抗性遺伝子 <i>RCY1</i> を導入した <i>Nicotiana benthamiana</i> の作出とウイルス感染に対する応答 ○高橋英樹 ¹ ・庄子紘美 ¹ ・安藤杉尋 ¹ ・竹下稔 ² ・鈴木 匡 ³ ・増田 税 ⁴ (東北大院農・九大院農・東大院新領域・北大院農)
305 座長 白川 隆 2008年に山口県の「白オクラ」の果実に発生した腐敗症について ○井上 興 ¹ ・澤田宏之 ² ・村本和之 ¹ ・鍛冶原寛 ¹ (山口県農林総セ・生物研)	405 座長 高橋英樹 タバコモザイクウイルス抵抗性遺伝子 <i>N</i> の転写増強に関与するエリシター応答配列の同定 佐々木信光・Haque, Md. A.・松丸昌道・小平将太・丹生谷博 (東京農工大遺伝子)
306 キュウリ葉に新たに発生した黄色ハローを伴う細菌病について ○瀧川雄一 ¹ ・西野芳太郎 ¹ ・佐藤拓也 ¹ ・奈尾雅浩 ² (静岡大農・愛媛農水研)	406 カブシクム属植物がもつトバモウイルス抵抗性遺伝子 <i>L¹⁶</i> の高温機能性は Leucine-rich repeat 領域にある 2 アミノ酸により決定されている ○水本祐之 ¹ ・富田麗子 ² ・木場章範 ¹ ・小林括平 ² ・曳地康史 ¹ (高知大農・岩手生工研)
307 カンキツグリーンング病原細菌ゲノムに見られた単純繰り返し配列の日本分離株における多様性 ○加藤 寛 ¹ ・富村健太 ¹ ・奥田 充 ² (果樹研・九沖農研)	407 <i>Capsicum</i> 属植物 L 抵抗性タンパク質によるトバモウイルス外被タンパク質の認識におけるタンパク質間相互作用 ○富田麗子 ¹ ・水本祐之 ² ・木場章範 ² ・曳地康史 ² ・小林括平 ¹ (岩手生工研・高知大農)

■第1日目

4月18日(日)	第1会場	第2会場
15:24	<p>108 ストロビリリン系薬剤耐性ブドウべと病菌の発生 ○綿打享子¹・功刀幸博¹・鈴木俊二²・村上芳照¹ (¹山梨果試・²山梨大)</p>	<p>208 <i>Fusarium oxysporum</i> の胞子形成関連遺伝子 <i>FoabaA</i> の機能解析 金野亜紀・寺岡 徹・○有江 力 (東京農工大 院農)</p>
15:36	<p>109 トリフルミゾール耐性トマト葉かび病菌の発生 ○渡辺秀樹¹・桑原圭司²・杖田浩二³・堀之内 勇人¹・石井英夫⁴ (¹岐阜農技セ・²岐阜防除所・³岐阜農技課・⁴農環研)</p>	
16:00~ 18:00	<p>ポスター発表 (1日目)</p>	

第3会場	第4会場
<p>308 グリーンング病発病がキングマンダリンの成長と収穫量に及ぼす影響 小堀陽一¹・緒方達志¹・○大藤泰雄¹・市瀬克也¹・Nguyen, M. C.²・Do, H. T.² (¹国際農研・²南部果樹研究所)</p>	<p>408 L³ 及び N¹ 抵抗性タンパク質におけるトバモウウイルス認識スペクトル決定領域の探索 ○関根健太郎・富田麗子・小林括平 (岩手生工研)</p>
<p>ポスター発表 (1日目)</p>	

■第2日目

4月19日(月)	第1会場	第2会場
9:00	<p>110 座長 佐藤豊三 茨城県で発見された新種の白紋羽病菌 <i>Rosellinia compacta</i> ○竹本周平^{1,2}・中村 仁¹・佐々木厚子¹・島根孝典¹ (1果樹研・2現:農環研)</p>	<p>209 座長 高野義孝 リンゴ斑点落葉病菌の AM 毒素生成遺伝子クラスターをコードする 1.4-Mb 染色体の構造 ○播本佳明¹・児玉基一郎²・山本幹博³・尾谷浩²・柘植尚志¹ (1名大院生農・2鳥取大農・3岡山大農)</p>
9:12	<p>111 ブルーベリーに発生した <i>Rosellinia necatrix</i> による白紋羽病 (新称) ○近藤賢一¹・中村 仁²・岩波靖彦¹・吉沢栄治¹ (1長野果試・2果樹研)</p>	<p>210 トマトアルターナリア茎枯病菌における宿主特異的 AAL 毒素生成遺伝子 (<i>ALT</i>) クラスターの構造および機能解析 ○赤木靖典¹・中林賢志¹・高尾和実¹・中道真由美¹・柘植尚志²・尾谷 浩¹・児玉基一郎¹ (1鳥取大農・2名大院生農)</p>
9:24	<p>112 りんご樹に発生した葉巻萎縮病 (病名再提案) ○岩波靖彦¹・中村 仁²・浅利正義³・佐野輝男⁴・近藤賢一¹ (1長野果試・2果樹研・3秋田果試・4弘前大農生)</p>	<p>211 アブラナ科植物炭疽病菌が分泌する LysM タンパク質の機能解析 ○高原浩之・O'Connell, R. (Max Plank Institute, Cologne)</p>
9:36	<p>113 ナン萎縮病は <i>Fomitiporia</i> sp. によって引き起こされる ○塩田あづさ¹・金子洋平¹・鈴木 健¹・中村仁²・服部 力³ (1千葉農林総研・2果樹研・3森林総研関西)</p>	<p>212 イネいもち病菌の感染における α-1,3-グルカンの役割について ○藤川貴史・西村麻里江 (生物研)</p>
9:48	<p>114 座長 中島千晴 <i>Oidium</i> 属 <i>Reticuloidium</i> 亜属菌によるマツバウンランうどんこ病 (新称) の新発生 ○佐藤幸生¹・星 秀男²・鍵和田聡³・西尾健³・堀江博道³ (1富山県立大・2東京農総研・3法政大生命)</p>	<p>213 座長 中屋敷均 いもち病菌の種特異的寄生性に関与する非病原力遺伝子 <i>PWT1</i> の染色体座乗領域 ○中馬いづみ・Zhan, S.-W.・浅野峻介・Nguyen, N. T. T.・Trinh, V. T. P.・白井倫子・茨木加奈・土佐幸雄 (神戸大農院)</p>
10:00	<p>115 <i>Hyaloperonospora brassicae</i> によるコマツナべと病 (新称) ○山内智史¹・佐藤 衛²・佐藤文生¹・白川 隆¹ (1野菜茶研・2花き研)</p>	<p>214 イネいもち病菌の非病原性遺伝子 <i>AVR-Pita1</i> は <i>Pita-2</i> による真性抵抗性の発現に関与する ○高橋真実¹・三木慎介²・曾根輝雄²・芦澤武人¹・荒井治喜¹ (1中央農研・2北大農院)</p>
10:12	<p>116 ニラに発生したべと病 (新称) 三澤知央¹・○佐藤 衛²・安岡真二¹・松下陽介²・埋橋志穂美³・佐藤豊三³・山内智史⁴・白川 隆⁴ (1道立道南農試・2花き研・3生物研・4野菜茶研)</p>	<p>215 イネいもち病菌非病原性遺伝子 <i>AVR-Pia</i> のコピー数および変異の解析 大塚主輔・三木慎介・○曾根輝雄 (北大農院)</p>

第3会場	第4会場
<p>309 座長 篠原弘亮 キウイフルーツかいよう病菌のファゼオロトキシン産生株と非産生株の発生消長 ○三好孝典¹・澤田宏之² (1愛媛果樹研セ・2生物研)</p>	<p>409 座長 近藤秀樹 トマト退緑萎縮病がトマトの収量に及ぼす影響および次亜塩素酸ナトリウムによる器具消毒効果 ○小塚玲子・竹内妙子 (千葉農林総研)</p>
<p>310 リアルタイム定量 PCR 法によるダイズ葉焼病菌のダイズからの検出・定量の試み ○渡邊貴弘¹・澤田宏之² (1福井農試・2生物研)</p>	<p>410 トマトの花芽形成におけるトマト退緑萎縮ウイルスとポテトスピンドルチューバーウイルスの分布差異 ○松下陽介¹・宇杉富雄²・津田新哉² (1花き研・2中央農研)</p>
<p>311 コムギ黒節病菌の検出法の評価 ○鈴木啓史¹・橋爪不二夫¹・黒田克利¹・森充隆² (1三重農研・2香川県庁)</p>	<p>411 レッドリーフ症状のパセリから分離された 2 種ウイルスについて ○藤永真史¹・小木曾秀紀¹・本井 浩²・夏秋知英³ (1長野野花試・2長野農改セ・3宇都宮大農)</p>
<p>312 ビルビン酸ナトリウム添加修正 SMSA 培地を用いた青枯病菌の高感度検出 ○今崎伊織・中保一浩 (中央農研)</p>	<p>412 沖縄県石垣市のトマトには <i>Ageratum yellow vein virus</i> および <i>Ageratum yellow vein Huailian virus</i> の 2 種ゴモウイルスが発生している ○大貫正俊¹・上田重文¹・安藤緑樹²・河野伸二³ (1九沖農研セ・2沖縄防技セ八重山・3沖縄農研セ)</p>
<p>313 特異プローブを用いたトマト青枯病の簡易診断 ○松浦克成¹・相野公孝^{1,2}・江崎孝行³・横山兼久⁴・藤本健太郎⁴ (1兵庫農総セ・2神戸大農・3岐阜大医・4住友ベークライト)</p>	<p>413 座長 津田新哉 アイリスイエロースポットウイルス (IYSV) によるラッキョウえそ条斑病 (新称) ○安田文俊¹・稲本勝太¹・宇杉富雄²・田中 篤¹・津田新哉² (1鳥取農林総研園試・2中央農研)</p>
<p>314 座長 相野公孝 「高接ぎ木」に用いる抵抗性台木品種別のトマト青枯病の発病抑制効果 ○鍛冶原寛¹・吉村美沙子¹・井上 興¹・野津あゆみ²・前田征之³・瓦 朋子⁴・中保一浩⁵ (1山口県農林総セ・2北海道花野セ・3新潟県農総研・4ベルグアース・5中央農研)</p>	<p>414 アスターおよびトルコギキョウに発生した <i>Chrysanthemum stem necrosis virus</i> (CSNV) ○桃井千巳¹・森脇丈治¹・守川俊幸² (1富山農総セ園研・2富山農総セ農研)</p>
<p>315 酵母抽出液を処理したトマト根部における青枯病菌の動態解析 ○中保一浩・石原岳明・花田 薫 (中央農研)</p>	<p>415 Sequence Comparison of Different Iranian Isolates of Tomato yellow fruit ring virus from Potato ○Golnaraghi, A.¹・Pourrahim, R.²・Farzadfar, S.²・and Ohshima, K.³ (1Sci. Res. Branch, Islamic Azad Univ., Iran, 2IRIPP, Iran, 3Fac. Agric., Saga Univ.)</p>

■第2日目

4月19日(月)	第1会場	第2会場
10:24	<p>117 広義の <i>Colletotrichum acutatum</i> によるピーマン炭疽病 (病原菌追加) ○神頭武嗣¹・宇佐見俊行²・佐藤豊三³・森脇丈治⁴・相野公孝¹・前川和正¹・岩本 豊¹・松浦克成¹ (兵庫県²千葉大院園³生物研⁴中央農研)</p>	<p>216 イネいもち病菌病原力エフェクター MC69 の機能解析 ○齋藤宏昌¹・藤澤志津子¹・伊東明子¹・寺内良平 (岩手生工研)</p>
10:36	<p>118 <i>Pythium irregulare</i> complex によるシクラメンビシウム根腐病 (新称) ○舟久保太一¹・景山幸二² (山梨総農セ¹岐阜大流域研セ)</p>	<p>217 イネいもち病菌エフェクターの宿主細胞内移行及び細胞死誘導に関する領域の探索 ○吉田健太郎¹・齋藤宏昌¹・藤澤志津子¹・伊東明子¹・Kamoun, S.²・寺内良平¹ (岩手生工研²TSL)</p>
10:48	<p>119 座長 景山幸二 <i>Pythium ultimum</i> var. <i>ultimum</i> による結球期キャベツの茎腐敗症状 (病徴追加) ○池田健太郎¹・坂野真平²・三木静恵¹・柴田聡¹・窪田昌春³・漆原寿彦⁴・小林逸郎⁴・藤村真² (群馬農技セ²東洋大生命³野菜茶研⁴吾妻農業事務所)</p>	<p>218 座長 一瀬勇規 イネ白葉枯病菌エフェクターを利用したイネ PAMPs 誘導抵抗性の解析 ○山口公志¹・古谷綾子²・落合弘和²・津下誠治³・島本 功¹・川崎 努¹ (奈良先端大バイオ²生物研³京都大院生命環境)</p>
11:00	<p>120 広島県の水耕栽培ネギで発生した <i>Pythium</i> 属菌による根腐病 ○清水佐知子¹・東條元昭² (広島総技研農技セ²大阪府大院生環)</p>	<p>219 イネ白葉枯病菌 <i>hnp</i> 遺伝子のイネ内での発現 澤田侑依・有馬寿英・○奥 尚 (県立広島大生命環境)</p>
11:12	<p>121 改良バミューダグラスに発生したネクロティックリングスポット病 (新称) ○佐々木伸浩¹・小真真樹¹・早川敏広¹・矢口重治 (理研グリーン)</p>	<p>220 イネ白葉枯病菌タイプ III エフェクターによって発現が影響されるイネ遺伝子の解析 ○落合弘和¹・古谷綾子¹・秋本千春¹・田部茂¹・藤澤由紀子¹・木村麻美子¹・大竹祐子¹・津下誠治²・南 栄一¹ (生物研²京都府大)</p>
11:24	<p>122 赤かび病に類似したオオムギ被害穀粒から分離された <i>Epicoccum nigrum</i> Link および <i>Sporobolomyces ruberrimus</i> Yamasaki & H. Fujii ex Fell & al. ○三室元氣¹・守川俊幸¹・埋橋志穂美²・岩田忠康¹・佐藤豊三² (富山農総セ²生物研)</p>	<p>221 イネ白葉枯病菌タイプ III エフェクター XopR を発現するシロイヌナズナ変異体の解析 ○秋本千春¹・古谷綾子¹・津下誠治²・落合弘和¹ (生物研²京都府大)</p>
11:36		<p>222 てんく巢症状を引き起こす低分子ペプチド TENGU の免疫組織化学的解析 ○大島研郎¹・星 朱香¹・柿澤茂行¹・石井佳子¹・姫野未紗子¹・小島信子¹・菅原杏子¹・煉谷裕太郎¹・難波成任 (東大院農)</p>

第3会場	第4会場
<p>316 透水性改善した土壌における熱水土壌消毒処理と接ぎ木によるトマト青枯病の防除 ○窪田昌春¹・佐藤 衛²・西 和文³・篠原信¹ (野菜茶研²花き研³日本くん蒸技術協会)</p>	<p>416 Incidence and Control of Cucumber green mottle mosaic virus in NWFP, Pakistan ○Ali, A.¹, Hussain, A.², Ahmad, M.², and Natsuaki, T.¹ (Utsunomiya Univ.,² Agric. Univ., Peshawar, Pakistan)</p>
<p>317 雨よけ栽培におけるトマトかきよう病の土壌伝染に対するナス台木接ぎ木トマトの防除効果 ○岩間俊太¹・今井照規¹・齋藤雅人¹・鈴木千秋¹・門田育生² (青森農林総研²東北農研)</p>	<p>417 座長 奥田 充 新潟県のユリ生産圃場におけるウイルス感染およびウイルス症状の調査 ○小湊正幸¹・佐山春樹¹・新子泰規¹・井上登志郎¹・夏秋知英² (日本デルモンテ²宇都宮大農)</p>
<p>318 座長 津野和宣 ファージのイネ内顆粒変病菌 <i>Erwinia ananas</i> に対する増殖抑制と溶菌範囲 ○畔上耕児 (中央農研)</p>	<p>418 キュウリ退緑黄化病が収量および果実品質に及ぼす影響 ○古田明子¹・野口眞季子¹・山口純一郎¹・行徳裕²・奥田 充³ (佐賀農業セ²熊本農研セ³九沖農研)</p>
<p>319 CTV ベクターを用いた抗細菌ペプチド遺伝子の一過性発現によるカンキツグリーニング病防除の試み ○宮田伸一^{1,2}・Filomonova, S.²・Gowda, S.²・Dawson, W.² (果樹研²フロリダ大学)</p>	<p>419 埼玉県のキュウリ抑制栽培におけるキュウリ退緑黄化病とキュウリ黄化病及び媒介虫であるコナジラミ類の発生消長 ○宇賀博之¹・菅原章夫² (埼玉農総研²大里農林振興セ)</p>
<p>320 ニンジンこぶ病菌 <i>Rhizobacter dauci</i> のシスト様細胞形成 ○河原崎秀志^{1,2}・後藤正夫¹・木嶋利男¹・瀧川雄一^{2,3} (微応研²静岡大院創造³静岡大農)</p>	<p>420 Onion yellow dwarf virus (OYDV) and Other Viruses Infecting Garlic (<i>Allium sativum</i> L.) Ecotypes in Iran ○Baghalian, K.^{1,2}, and Natsuaki, K. T.¹ (Tokyo Univ. Agric.,² Fac. Agric., Islamic Azad Univ.)</p>
<p>321 タマネギ萎黄病ファイトプラズマの昆虫伝播に関わる主要抗原膜タンパク質のアミノ酸変異領域の推定 ○田中 穰 (中央農研)</p>	<p>421 サギソウモザイクウイルス RNA の全塩基配列の決定 ○丸山和之¹・近藤秀樹¹・前田孚憲²・鈴木信弘¹ (岡山大資生研²日大生物資源)</p>

■第2日目

4月19日(月)	第1会場	第2会場
13:00～ 15:45	<p>課題別シンポジウム</p> <p>「環境保全型農業を推進する病害防除技術の普及における課題と新たな展開」</p>	<p>課題別シンポジウム</p> <p>「植物-微生物相互作用の分子解析の最前線」</p>
16:00～ 18:00	<p>ポスター発表 (2日目)</p>	

第3会場	第4会場
<p>課題別シンポジウム</p> <p>「最近の <i>Pythium</i> 属菌による病害の発生動向」</p>	
<p>ポスター発表 (2日目)</p>	

■第3日目

4月20日(火)	第1会場	第2会場
9:00	123 座長 窪田昌春 セイヨウナシ褐色斑点病菌による‘ル・レクチエ’果実の腐敗病徴 ○棚橋 恵 ¹ ・佐藤秀明 ¹ ・尾谷 浩 ² (1新潟農総研園研セ・ ² 鳥大農)	223 座長 土佐幸雄 トマト栽培品種および野生種におけるトマトアルターナリア茎枯病抵抗性遺伝子 <i>Ascl1</i> の比較解析 ○江草真由美 ¹ ・赤木靖典 ¹ ・角本邦子 ¹ ・有江力 ² ・尾谷 浩 ¹ ・児玉基一郎 ¹ (1鳥取大農・ ² 農工大農)
9:12	124 ヨウサイ (エンサイ) 白さび病の国内発生と病原菌 <i>Albugo ipomoeae-aquaticae</i> の宿主範囲および分子系統解析 ○佐藤豊三 ¹ ・生咲 巖 ² ・澤嶋哲也 ³ ・埋橋志穂美 ¹ ・富岡啓介 ¹ (1生物研・ ² 香川農試・ ³ 沖縄農試)	224 <i>Medicago truncatula</i> におけるジャスモン酸合成系遺伝子とそれらのサブレッサーによる制御 川本優理子・川西由利子・稲垣善茂・一瀬勇規・○豊田和弘・白石友紀 (岡大院自然科学)
9:24	125 ITS2の塩基配列と二次構造による <i>Pestalotiopsis</i> 属菌とその関連属菌の系統解析 ○渡辺京子 ¹ ・小野泰典 ² (1玉川大農・ ² 第一三共)	225 イネいもち病圃場抵抗性遺伝子 <i>Pi34</i> 座乗領域の構造および候補遺伝子の塩基配列解析 ○善林 薫・鬼頭英樹・中島敏彦 (農研機構東北研)
9:36	126 <i>Pythium splendens</i> が関与した沖縄県のパパイヤ連作圃場で発生した生育遅延症について ○亀川 藍 ¹ ・東條元昭 ² ・池田晴佳 ² ・宮城聡子 ³ ・宮丸直子 ¹ ・澤嶋哲也 ¹ ・河野伸二 ¹ (1沖縄農研セ・ ² 大阪府大院生環・ ³ 沖縄農研宮古島支所)	226 圃場抵抗性遺伝子 <i>Pi34</i> が導入されたイネ準同質遺伝子系統のいもち病感染応答 ○鬼頭英樹・善林 薫・中島敏彦 (農研機構東北研)
9:48	127 ダイズ黒根腐病自然発生圃場土からの黒根腐病菌の検出法の開発 ○越智 直・仲川晃生 (中央農研)	227 酵母 One-hybrid system を用いた根こぶ特異的プロモーター (<i>Pnit2int2</i>) の発現調節因子の探索 ○安藤杉尋 ¹ ・小長谷賢一 ² ・田部井豊 ² ・高橋英樹 ¹ (1東北大院農・ ² 生物研)
10:00	128 座長 宍戸雅宏 培養土からイチゴ萎黄病菌を PCR で検出するための DNA 抽出法と前培養培地の検討 ○平山喜彦 ¹ ・須賀晴久 ² ・景山幸二 ³ ・岡山健夫 ¹ ・西崎仁博 ¹ ・鈴木 健 ⁴ (1奈良農総セ・ ² 岐阜大生命セ・ ³ 岐大流域研セ・ ⁴ 千葉農林総研セ)	228 座長 稲垣善茂 シロイヌナズナにおけるタイプ B トリコセシン応答遺伝子の機能解析 ○加藤智朗 ¹ ・佐々木亮輔 ² ・浅野智哉 ¹ ・小島三佳 ³ ・本多純行 ⁴ ・高野義孝 ³ ・木村 真 ⁵ ・古賀博則 ² ・西内 巧 ¹ (1金沢大学学際セ・ ² 石川県大・ ³ 京大院農・ ⁴ 福井農試・ ⁵ 理研基幹研)
10:12	129 PCR によるイチゴ萎黄病菌の転移因子関連配列の検出 ○須賀晴久 ¹ ・平山喜彦 ² ・森島正二 ³ ・鈴木健 ⁴ ・景山幸二 ⁵ ・百野満朗 ⁶ (1岐阜大生命セ・ ² 奈良農総セ・ ³ 栃木農試・ ⁴ 千葉農林総研セ・ ⁵ 岐大流域研セ・ ⁶ 岐大応生)	229 シロイヌナズナとムギ類で共通して見られる赤かび病菌及びトリコセシンに対する宿主の応答について 浅野智哉 ¹ ・加藤智朗 ¹ ・木村 真 ² ・古賀博則 ³ ・○西内 巧 ¹ (1金沢大学学際セ・ ² 理研基幹研・ ³ 石川県大)
10:24	130 PCR によるイチゴ炭疽病菌検出技術の現地育苗圃場における実用性 平山喜彦 ¹ ・○西崎仁博 ¹ ・岡山健夫 ¹ ・米田祥二 ¹ ・鈴木 健 ² (1奈良農総セ・ ² 千葉農林総研)	230 シロイヌナズナの NADPH 依存型チオレドキシニンレダクターゼ AtNTRB は過敏感細胞死を負に制御する 塩澤美紀・高師義幸 ¹ ・田村勝徳 (東大分生研)

第3会場	第4会場
322 座長 新村昭憲 ミャンマー国で採取された <i>Capsicum</i> 属植物のピーマン黒枯病に対する抵抗性 ○下元祥史 ^{1,2} ・澤田博正 ¹ ・岡田昌久 ¹ ・森田泰彰 ¹ ・水本祐之 ² ・木場章範 ² ・曳地康史 ² (1高知農技セ・ ² 高知大農)	422 座長 増田 税 <i>Arabidopsis thaliana</i> の 5' 非翻訳領域 (5'UTR) に由来する翻訳エンハンサー活性の分子解剖について 稲本 敦・小倉里江子・○平塚和之 (横浜国大院環境情報)
323 ナシの新品種、豊華 (ゆたか) は重要病害の黒星病と黒斑病に複合抵抗性 ○石井英夫 ^{1,2} ・木村 豊 ³ ・佐藤義彦 ⁴ ・山口正博 ⁵ ・柿嵩 真 ² (1農環研・ ² 筑波大院・ ³ 埼玉県・ ⁴ 果樹研・ ⁵ 佐賀県)	423 タバコモザイクウイルスの感染における翻訳伸長因子 eEF1A の機能解析 ○山次康幸 ¹ ・桜井慶太郎 ¹ ・小松 健 ¹ ・難波成任 ¹ ・日比忠明 ² (1東大院農・ ² 法政大生命)
324 カキ円星落葉病の主要感染時期と散布時期別のジフェノコナゾール顆粒水和剤の防除効果 ○川上暢喜 ¹ ・山岸菜穂 ¹ ・江口直樹 ² (1長野県信試・ ² 長野農試)	424 Poly (A) 結合タンパク質 (PABP) は <i>Red clover necrotic mosaic virus</i> (RCNMV) RNAI の 3' 非翻訳領域 (UTR) に結合し cap/poly (A) 非依存的翻訳を促進する 岩川弘宙 ¹ ・谷口貴子 ² ・谷口寿章 ² ・海道真典 ¹ ・三瀬和之 ¹ ・○奥野哲郎 ¹ (1京大院農・ ² 徳島大疾患醸造学研セ)
325 コムギ赤かび病に対する防除手法と赤かび病発生の関係 ○大場淳司 ¹ ・齋藤泰彦 ² ・中塩 修 ² ・平 智文 ¹ ・伊東知英 ³ (1宮城古川農試・ ² 北興化学・ ³ 北海道糖業)	425 ウリ科植物病原ウイルス遺伝子の一部を挿入したリング小球形潜在ウイルスベクターの干渉効果 田村顕裕 ¹ ・高橋 翼 ¹ ・梁 宝成 ² ・小坂能尚 ³ ・夏秋知英 ⁴ ・○吉川信幸 ¹ (1岩手大農・ ² 京都微研・ ³ 京都農技セ生資セ・ ⁴ 宇都宮大農)
326 ジャガイモそうか病菌の死滅温度条件と種いもの湯湯処理によるそうか病の防除効果 ○西 八東・田布尾尚子 (鹿児島農総セ)	426 <i>In situ</i> hybridization によるリング小球形潜在ウイルスの茎頂組織での分布の解析 ○山岸紀子・佐々木慎太郎・中村和也・吉川信幸 (岩手大農)
327 座長 小坂橋夫 物理的防除を組み込んだ半促成長期取りアスパラガス病害の総合防除体系 ○稲田 聡・山口純一郎・古田明子 (佐賀農業セ)	427 座長 小林括平 スイカ緑斑モザイクウイルス弱毒株 SH33b を用いたキュウリ緑斑モザイクウイルスに対する防除法の検討 ○久保田健嗣 ¹ ・望月知史 ² ・津田新哉 ³ (1九州沖縄農研・ ² 大阪府大・ ³ 中央農研)
328 捕捉・忌避型静電場スクリーンを利用した施設栽培トマトの病虫害防除 ○松田克礼 ¹ ・野々村照雄 ¹ ・金原淳司 ² ・草刈真一 ³ ・豊田秀吉 ¹ (1近畿大農・ ² カゴメ・ ³ 大阪府環境農水総研)	428 メロン黄化えそウイルス (MYSV) 弱毒株の作出 ○竹内繁治 ^{1,2} ・下元祥史 ¹ ・森田泰彰 ¹ ・石川浩一 ³ (1高知農技セ・ ² 現・高知環農推課・ ³ 近中四農研セ)
329 カラシナ、野生エンパク、フスマの土壌混和・密封によるホウレンソウ萎凋病菌の密度低下 ○竹原利明・井上博喜・宮川久義 (近中四農研)	429 RNA 干渉法を用いたイネ絹葉枯ウイルス抵抗性導入手法の開発 ○清水巧・長岡 (中園) 栄子・一木 (植原) 珠樹・笹谷孝英・大村敏博 (中央農研/PROBRAIN)

■第3日目

4月20日(火)	第1会場	第2会場
10:36	131 PCRによるイチゴ炭疽病潜在感染株の高頻度検出部位 ○鈴木 健 ¹ ・平山喜彦 ² ・鈴木達哉 ¹ ・田中千華 ¹ ・大谷徹 ¹ ・伊東靖之 ¹ (¹ 千葉農林総研・ ² 奈良農総セ)	231 シロイヌナズナ MAMP 応答性 MAP キナーゼ経路を正に制御するコピキチンリガーゼ ○市村和也 ¹ ・溝口 剛 ² ・Alexander, G. ³ ・高橋史憲 ⁴ ・篠崎一雄 ⁴ ・白須 賢 ⁴ (¹ 香川大農・ ² 筑波大遺伝子セ・ ³ Sainsbury Lab. John Innes Cent, UK・ ⁴ 理研 PSC)
10:48	132 Real-Time PCR Application for Efficient Screening of Fusarium Head Blight Resistance and Low Mycotoxin Accumulation in Wheat and Barley ○Murakami, J. ¹ , Ban, T. ² , Lewis, J. ³ , Egusa, M. ⁴ , Kodama, M. ⁴ , Gargouri, S. ⁵ , De Villiers, C. ⁶ , Mezzalama, M. ¹ , and Duveiller, E. ¹ (¹ CIMMYT, ² KIBR-YCU, ³ Michigan State Univ., ⁴ Tottori Univ., ⁵ INRAT, ⁶ ARS-SGI)	232 Pantoea ananatis Group1 がタバコに誘導する過敏反応様反応 (HR-like reaction) の特徴 ○木戸一孝 ¹ ・古谷綾子 ² ・落合弘和 ² ・松本洋司 ³ ・松本大雪 ³ ・瀧川雄一 ^{1,3} (¹ 静岡大院創造・ ² 生物研 ³ 静岡大農)
11:00	133 座長 仲川晃生 ITS 領域を標的とした QProbe-PCR 法によるコムギ赤かび病菌の定量的検出 ○鈴木文彦・古場文子・宮坂 篤・吉田めぐみ・中島 隆 (九冲農研)	233 座長 多田安臣 オートファジー能欠損シロイヌナズナにおけるプログラム細胞死促進の原因は過剰なサリチル酸シグナリングである ○吉本光希 ¹ ・大隅良典 ² ・白須 賢 ¹ (¹ 理研 PSC ² 東工大)
11:12	134 兵庫県の丹波黒栽培地域におけるダイズ茎疫病菌のレース分布と育種母本の選定 ○杉本琢真 ¹ ・吉田晋弥 ¹ ・相野公孝 ¹ ・神頭武嗣 ¹ ・前川和正 ¹ ・入江和己 ^{1,2} (¹ 兵庫農総セ・ ² 現:明治製菓)	234 定量 RT-PCR 法による病原菌の簡易定量および生物活性評価法の開発 ○鳴坂義弘 ¹ ・鳴坂真理 ^{1,2} ・白石友紀 ² ・岩淵雅樹 ¹ (¹ 岡山生物研 ² 岡大農)
11:24	135 トマト萎凋病菌新型レース3の発生 ○森田泰彰 ¹ ・稲見圭悟 ² ・寺岡 徹 ² ・有江 力 ² (¹ 高知農総セ・ ² 東京農工大農)	235 デュアル R- 遺伝子システムによる病原菌認識機構の解明 ○鳴坂真理 ^{1,2} ・白須 賢 ³ ・久保康之 ⁴ ・豊田和弘 ² ・白石友紀 ² ・岩淵雅樹 ¹ ・鳴坂義弘 ¹ (¹ 岡山生物研 ² 岡大農 ³ 理研 PSC ⁴ 京都府大)
11:36	136 テンサイ採種用母根における <i>Phoma betae</i> 貯蔵腐敗病について ○鷹田秀一 (ホクレン農協連)	236 抵抗性蛋白質の安定化に必須な RARI-SGT1-HSP90 複合体の立体構造及び機能解析 ○門田康弘 ¹ ・Zhang, M. ² ・竹林有理佳 ¹ ・Prodromou, C. ² ・Guerois, R. ³ ・Pearl, L. H. ² ・白須賢 ¹ (¹ 理研 PSC ² Sec. Struc. Biol., Inst. Cancer Res. ³ SBFM-DBJC, CEA Saclay)
11:48		

第3会場	第4会場
330 Spent Mushroom Substrate (SMS) of Hatakeshimeji (<i>Lyophyllum decastes</i> Sing.) and Its Water Extract Protect Cucumber from Anthracnose ○Parada, R. ¹ , Egusa, M. ¹ , Murakami, S. ² , Shimomura, N. ¹ , Kodama, M. ¹ , and Otani, H. ¹ (¹ Fac. Agric. Tottori Univ., ² Tottori Mycol. Inst.)	430 イネ萎縮ウイルスおよびイネ結葉枯ウイルス抵抗性遺伝子組換え飼料イネの開発 ○笹谷孝英 ¹ ・清水 巧 ¹ ・長岡 (中園) 栄子 ¹ ・一木 (植原) 珠樹 ¹ ・青木秀之 ¹ ・雑賀啓明 ² ・土岐精一 ² ・矢頭 治 ¹ ・大村敏博 ¹ (¹ 中央農研/PROBRAIN ² 生物研)
331 数種イネ病害の食酢と生物農薬を用いた防除 ○守川俊幸 ¹ ・三室元気 ¹ ・関原順子 ² ・岩田忠康 ¹ (¹ 富山農総セ・ ² 高岡農振セ)	431 人工 DNA 結合タンパク質を用いたトマト黄化葉巻ウイルス耐性植物の開発 木村泰裕・竹中公亮・堂本郁也・大橋維辰・宮崎俊秀・青山安宏・○世良貴史 (京大院工)
332 座長 石川成寿 <i>Pseudomonas fluorescens</i> FPH9601, FPT9601 をライココート処理した青枯病耐病性トマトからの青枯病菌の検出 ○相野公孝 ¹ ・松浦克成 ¹ ・岩本 豊 ¹ ・安達理恵 ² ・難波孝志 ³ ・秋津教雄 ⁴ ・橋本好弘 ⁵ ・小泉銘嗣 ⁵ ・加来久敏 ⁵ (¹ 兵庫農総セ・ ² 高知農総セ・ ³ 日植防研 ⁴ 多木化学 ⁵ サカタのタネ)	432 座長 森山裕充 欠失 RNA セグメントを含む <i>Rosellinia necatrix</i> megabirnavirus 1 変異株が白紋羽病菌の病原性に及ぼす影響 ○兼松聡子 ¹ ・八重樫元 ¹ ・佐々木厚子 ¹ ・鈴木信弘 ² ・伊藤 伝 ¹ (¹ 果樹研 ² 岡大資生研)
333 <i>Pseudomonas fluorescens</i> FPH9601 および FPT9601 をライココートした接ぎ木トマトのトマト青枯病に対する防除効果 ○安達理恵 ¹ ・小泉銘嗣 ² ・秋津教雄 ³ ・中屋敷均 ⁴ ・相野公孝 ⁵ ・橋本好弘 ² (¹ 高知農総セ・ ² サカタのタネ ³ 多木化学 ⁴ 神戸大農 ⁵ 兵庫農総セ)	433 白紋羽病菌 W8 株から検出される L1 及び L2dsRNA のシークエンス解析 ○佐々木厚子 ¹ ・中村 仁 ¹ ・澤島拓夫 ¹ ・鈴木信弘 ² ・兼松聡子 ¹ (¹ 果樹研 ² 岡大資生研)
334 <i>Pseudomonas fluorescens</i> のバイオコントロール因子の発現制御に関する因子 ○竹内香純 ¹ ・Dubuis, C. ² ・Reimann, C. ² ・Keel, C. ² ・Haas, D. ² (¹ 生物研 ² ローザンヌ大)	434 Mycovirus 1 S4-Coded Protein Is Dispensable for Viral Replication but Necessary for Efficient Vertical Transmission and Normal Symptom Induction Eusebio-Cope, A. ¹ , Sun, L. ² , Hillman, B. ³ , and ○Suzuki, N. ¹ (¹ RIB, Okayama Univ., ² Zhejiang Acad. Agric. Sci. ³ Rutgers Univ.)
335 新規の揮発性抗菌物質生産糸状菌による植物病原菌の生育抑制 ○小坂橋基夫・對馬誠也 (農環研)	435 メロンエス斑点ウイルスの外被タンパク質における媒介菌への親和性に関する領域の解析 ○大木健広 ¹ ・秋田総理 ¹ ・望月知史 ² ・神田絢美 ¹ ・笹谷孝英 ¹ ・津田新哉 ¹ (¹ 中央農研 ² 大阪府大)
336 乳酸菌 <i>Lactobacillus plantarum</i> SOK04BY 株のハクサイ軟腐病に対する防除効果と作用機作 荻山 寛 ¹ ・○辻 元人 ¹ ・梅村賢司 ² ・三富正明 ² ・小坂能高 ³ ・津田和久 ³ ・久保康之 ¹ (¹ 京都府大院生環 ² 明治製菓 ³ 京都農総セ生資セ)	436 リンドウこぶ症発症株から高頻度で検出されるウイルス様 dsRNA ○小林拓平 ¹ ・岩館康哉 ² ・関根健太郎 ¹ ・赤坂志保 ² ・千葉賢一 ² ・富田麗子 ¹ ・猫塚修一 ² (¹ 岩手生工研 ² 岩手農研 ³ 大船渡改普セ)

■第3日目

4月20日(火)	第1会場	第2会場
13:00	137 座長 星 秀男 雨除け栽培で発生するトマト葉かび病の発病株の空間分布解析 ○川口 章・末永寛子 (岡山農試)	237 座長 吉岡博文 Rタンパク質によるGタンパク質OsRac1の活性化が植物免疫に重要である ○河野洋治 ¹ ・赤松 明 ¹ ・林 敬子 ² ・宝泉雄介 ¹ ・奥田 淳 ¹ ・中島綾子 ¹ ・高橋弘喜 ¹ ・吉田 均 ² ・Wong, H.-L. ¹ ・川崎 努 ¹ ・島本 功 ¹ (1 奈良先端大バイオ・ ² 中央農研)
13:12	138 静岡県におけるトマトすかび病・葉かび病の発生状況 ○斉藤千温 ¹ ・加藤光弘 ^{1,2} ・土井 誠 ¹ (1 静岡防除所・ ² 現: 静岡果研セ)	238 イネ免疫応答におけるOsRac1 (低分子量Gタンパク質) 複合体の生化学的手法・プロテオミクスによる解析 ○藤原正幸 ¹ ・濱田 聡 ² ・深尾陽一郎 ¹ ・川崎 努 ² ・島本 功 ² (1 奈良先端大バイオ植物ユニット・ ² 奈良先端大バイオ植物分子遺伝学)
13:24	139 北海道におけるキュウリ褐斑病菌の越冬 ○長浜 恵 (道立上川農試)	239 Hop/Sti1 and Hsp90 Are Involved in Maturation and Transport of a PAMP Receptor in Rice Innate Immunity ○Chen, L. ¹ , Hamada, S. ¹ , Fujiwara, M. ¹ , Zhu, T. ¹ , Thao, N.-P. ¹ , Wong, H.-L. ¹ , Ueda, T. ² , Hanae, K. ³ , Shibuya, N. ³ , Kawasaki, T. ¹ and Shimamoto, K. ¹ (1 Plant Mol. Gen., NAIST, 2 Dept. Biol. Sci., Univ. Tokyo, 3 Fac. Agric., Meiji Univ.)
13:36	140 果樹病原 <i>Phomopsis</i> 属菌のナシ枝に対する病原性の差異 ○中村 仁・佐々木厚子・澤島拓夫・兼松聡子 (果樹研)	240 OsPti1a の膜局在が耐病性の抑制に重要である ○松井英謙・山崎宗郎・加星 (岸) 光子・宮尾安藝雄・高橋 章・廣近洋彦 (生物研)
13:48	141 座長 伊藤 伝 モモ果実赤点病菌の枝上での分生子形成とその飛散および果実への感染 ○森本涼子 (和歌山農総技セ果樹試かき・もも研)	241 リン酸化プロテオーム解析手法を用いた病害抵抗性機構の解析 ○中神弘史 ¹ ・野村有子 ¹ ・大井信明 ¹ ・持田恵一 ¹ ・杉山直幸 ² ・石濱 泰 ² ・白須 賢 ¹ (1 理研 PSC・ ² 慶應大先端生命研)
14:00	142 ブルーベリーバルデンシア葉枯病の発生消長と耕種の防除 ○猫塚修一 (岩手農研)	242 座長 豊田和弘 G6PDH は INF1 により誘導されるオキシダティブーストおよび過敏細胞死に関与する ○浅井秀太・刀弥千代里・中島和美・中根栄一・道家紀志・吉岡博文 (名大院生農)
14:12	143 ホオズキ白絹病発病と土壌中の菌核数の関係 ○伏見典晃 ¹ ・市川 健 ² ・鈴木幹彦 ¹ (1 静岡農林研・ ² 静岡県庁)	243 MAPK による WRKY 型転写因子のリン酸化が植物免疫応答の誘導に関与する ○石濱伸明・山田麗子・吉岡博文 (名大院生農)

第3会場	第4会場
337 座長 三宅律幸 イチゴ炭疽病に高い生物防除活性を示す放線菌株のスクリーニング 大野鉄平 ¹ ・清水将文 ¹ ・黒田克利 ² ・北村八祥 ² ・山本有子 ² ・鈴木啓史 ² (1 三重大院生物資源・ ² 三重農研)	437 座長 濱本 宏 カンキツに発生するリンゴシステムグルーピングウイルスを迅速・簡易に診断するイムノクロマト・キットの作製 ○草野成夫 ¹ ・岩波 徹 ² ・植原謙次 ³ ・田中雅士 ³ ・朝隈英昭 ¹ (1 福岡農総試果樹苗木・ ² 果樹研・ ³ ミズホメディー)
338 亜リン酸肥料の処理によるジャガイモ疫病防除効果 ○仲川晃生 ¹ ・越智 直 ¹ ・清水繁夫 ² (1 農研機構中央農研・ ² 日本医薬品開発研究所)	438 カンキツのウイルス検定における検出方法の問題点とイムノクロマト法の検出精度の向上 ○影山智津子 ¹ ・加藤光弘 ¹ ・草野成夫 ² ・植原謙次 ³ ・田中雅士 ³ ・岩波 徹 ⁴ (1 静岡農林果研セ・ ² 福岡農総試果樹苗木・ ³ ミズホメディー・ ⁴ 農研機構果樹研)
339 ホオズキの宿存萼に発生する病害とその対策 鈴木幹彦・伏見典晃・○万年潤哉 (静岡農林研)	439 メロンネズ斑点ウイルス媒介菌 <i>Oplidium bornovanus</i> の土壌からの検出法 ○小淵理絵 ¹ ・田中千華 ² ・神田詢美 ¹ ・津田新哉 ¹ (1 中央農研・ ² 千葉暖地園研)
340 殺菌剤アミスルブロムのアブラナ科野菜根こぶ病菌に対する作用特性 ○蓮沼奈香子・本田 卓・若山健二 (日産化学工業)	440 プラスチックカップ土壌検診法によるジャガイモシストセンチュウとジャガイモモップトップウイルスの同時検出 ○眞岡哲夫・中山尊登・奈良部孝 (北海道農研)
341 殺菌剤アミスルブロムの種子処理によるダイズ茎疫病およびアファノマイセス苗立枯病に対する効果 ○深見泰弘・蓮沼奈香子・古澤裕之・本田 卓・若山健二 (日産化学工業)	441 長野県におけるムギ類萎縮ウイルスの発生とそのゲノム解析 ○白子幸男 ¹ ・前島秀和 ² (1 東大アジア生資研・ ² 長野県農試)
342 座長 足立嘉彦 ベンゾイミダゾール系薬剤耐性カンキツ炭疽病菌の発生 ○田代暢哉 ¹ ・井手洋一 ² ・中島貞彦 ¹ ・正司和之 ¹ (1 佐賀上場セ・ ² 佐賀果樹試)	442 座長 眞岡哲夫 キュウリ緑斑モザイク病の土壌伝染と罹病残渣の腐熟期間との関係 ○黒木 尚・今村幸久 (宮崎総農試)
343 新規殺菌剤ピリベンカルブに対する灰色かび病菌の感受性検定法 ○貴田健一 ¹ ・石井英夫 ² ・間佐古将則 ⁴ ・藤村真 ³ ・高垣真喜一 ¹ (1 ギミアイ化学・ ² 農環研・ ³ 東洋大・ ⁴ 和歌山農総セ)	443 移植時の健全土層追加によるキュウリ緑斑モザイク病の感染軽減効果 ○吉田桂子 (愛知農総試)

■第3日目

4月20日(火)	第1会場	第2会場
14:24	<p>144 水稲登熟期の用水かけ流し処理がイネ紋枯病に及ぼす影響 ○宮坂 篤・中島 隆・丸山篤志・脇山恭行 (九沖農研)</p>	<p>244 RNAiによるジャガイモファイトアレキシン合成遺伝子の機能解析 ○吉岡美樹・安達郁子・道家紀志・吉岡博文 (名大院生農)</p>
14:36		<p>245 Defence Reaction of Potato Cells: The Suppressor and PIP Elicitor Signal Transduction with Ca²⁺ Dependent Protein Kinase (CDPK) in the AOS Generation with NADPH Oxidase (rboh-Gene) in the Host Cells ○Furuichi, N., Yokokawa, K., Okamura, H., and Ohta, M. (Grad. Sch. Sci. & Tech., Niigata Univ.)</p>

第3会場	第4会場
<p>344 ストロビリリン系殺菌剤の散布は茶園におけるQoI 剤耐性輪斑病菌を速やかに蔓延させる ○尾松直志¹・田中敏弘²・富濱 毅³・野中壽之⁴ (¹鹿児島農開総セ茶業部・²鹿児島農開総セ茶業部大隅・³大隅地域振興局・⁴鹿児島経済連)</p>	<p>444 アシベンゾラル-S-メチル (ASM) によるウリ類退緑黄化ウイルスの感染低減 ○竹下 稔¹・奥田しおり²・奥田 充² (¹九大院農・²九州沖縄農研)</p>
<p>345 静岡県牧ノ原台地におけるQoI 剤耐性チャ輪斑病菌の分布 ○山田憲吾・園田亮一 (野菜茶研)</p>	<p>445 抵抗性を誘導する天然物質を処理したピーマンにおける <i>Tomato spotted wilt virus</i> 感染に対する応答の変化 ○奥田 充¹・岡 紀邦²・中保一浩³・門田育生⁴・花田 薫³ (¹九沖農研・²北農研・³中央農研・⁴東北農研)</p>